

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	木更津市立木更津第一中学校
-----	----------	-----	---------------

○国語については、領域・問題形式ともにすべての分野で県・全国の数値を下回る結果となった。書く領域も県・全国の平均正答率よりも低い結果となった。特に、「文章を読んで理解したことを知識や経験と結びつけ、自分の考えとして表現すること」に課題があることがわかった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○教科指導と学級活動の双方向から書くことを中心とした表現力を高める学習活動を意図的に取り入れれば、国語科の表現力（書く力）の向上を図ることができるだろう。

3. 具体的な実践

- 全学年で作文指導の実施・・・200字程度の作文を月に1～2枚のペースで取り組ませ、指導者による添削や、生徒間での相互評価の機会を設けている。
- 「漢字練習」の時間の確保・・・授業冒頭の5分間を自主学習の時間として位置付け、生徒は自分のペースで学習に取り組めるようにしている。
- 実践モデルプログラムの「広げ深める」の充実・・・自分の考えを仲間へと伝えたり、仲間の発表から新たな考えに気づいたりする機会を設けることで、表現力が磨かれるように指導している。

4. 成果

- 全職員で生徒の学習課題について共通理解を図り、手立てを共有することで、全教科で表現力を高めるための授業改善をしようとする意識改革をすることができた。
- 実践モデルプログラムを全教科で活用することで、授業改善につなげることができた。教科部会内での意見交換や職員同士の相互授業参観が活発にできたことも大きな成果だと考える。

◆担当指導主事から（南房総教育事務所 指導主事 上代 博行）

- 全教科で意図的に「書く活動」の場面を増やして表現力の向上を図っている。実践モデルプログラムの「広げ深める」の過程に重点を置き、話し合い活動ではタブレットを活用したり、グループ活動の様々な手法を取り入れたりして、考えを伝える活動に取り組んでいる。